

E V E N T R E P O R T

企業3名でした。分子研OB・OGからの紹介による参加者に加え、分子研に併設されている総研大二専攻の大学院受験を念頭に、研究室訪問をしている参加者が多くみられました。実際、構造分子科学専攻ならびに機能分子科学専攻では、5年一貫博士課程の受験者数が増加し続けています。自由に研究室を訪問・見学でき、指導教員やグループメンバーと歓談できる本事業は、分子研に併設されてい

る総研大二専攻への入学を考えている学生にとって、大変有意義な機会になっているように思います。

本事業にご協力くださいました

関係者の皆様に、この場をお借りいたしまして、深く御礼申し上げます。



受賞者の声

鬼頭 俊介

(物質分子科学研究領域 電子物性研究部門 中村グループ (現: 横山グループ) 特別共同利用研究員)

2019年 日本物理学会第74回年次大会 学生優秀発表賞(領域8) および第33回先端技術大賞 ニッポン放送賞

この度、「2019年 日本物理学会第74回年次大会 学生優秀発表賞(領域8)」及び「第33回先端技術大賞 ニッポン放送賞」を受賞させて頂くことができ、大変光栄に存じます。前者は日本物理学会 領域8(強相関電子系)における記念すべき第1回目の学生優秀発表賞であり、受賞題目は「Cu_{0.33}TiSe₂におけるCuイオンの秩序化に伴うハニカム格子型電荷秩序の形成」です。この研究では、歴史ある層状化合物TiSe₂においてCuイオンを層間にインターカレーションすることで、新たな電荷秩序相を

実現することに成功しました。後者はフジサンケイビジネスアイが「理工系学生の独創性と創造性をはぐくみ、研究への意欲を高める」ことを目的に1986年に創設された賞で、受賞題目は「放射光X線を用いた物質の軌道状態の直接観測手法の確立～軌道自由度に関する物性研究の新展開～」です。この研究は、放射光X線と我々が新たに提案する“コア差フーリエ合成法”による電子密度解析手法を組み合わせることで、電子状態を支配する軌道状態(電子の空間分布状態)の直接観測に成功したものであ



り、物性研究のブレイクスルーと期待しております。今後も本成果を発展させて物性科学分野に貢献できるよう研究活動に邁進いたします。

最後に、両受賞に関する研究は共に分子研・特別共同利用研究員として遂行したテーマであり、指導教員の名古屋大学・澤博先生、分子研・中村敏和先生を始め共同研究者の皆様に深く感謝申し上げます。